

# AFTERNOON TEA

浜松大学保健医療学部

櫻井 博紀

愛知医科大学・生理学講座の西村直記先生からバトンを受け執筆させていただくことになりました。私は理学療法士で、現在、浜松大学・保健医療学部所属しております。

私と生理学会の接点は、理学療法士養成校を卒業した後、故熊澤孝朗教授に導かれ愛知医科大学医学研究科に入学したところから始まります。熊澤先生とはもともと大学時代のテニス部の顧問というつながりで、大学卒業後、私が医療系に進んだことがきっかけで、先生が愛知医科大学に痛み学ファイザー寄附講座を開設したのに伴い呼んでいただきました。そこでは、慢性痛の病態解明を目指して、ラットでの慢性痛モデル動物の開発や、その自律神経動態の検討から始めました。動物実験は初めてで右も左も分からない状態でのスタートで、当時、ほぼ同時期に講座に来られた橋本辰幸先生と、他講座から教えていただいたりしながら試行錯誤で研究をしていたことが懐かしく思えます。熊澤先生のご指導は厳しく、実験の再現性の大切さや、個々のデータを詳細に解析することの大切さなどたくさんを学ばせていただきました。自律神経系のデータでは、数時間の記録紙データを長机を並べた上に何枚も広げて、脚立に登って上から眺めながらご指導を受けたこともあり、先生はいつも“7days a week”とおっしゃって、その言葉通りほぼ毎日実験をしていたことを思い出します。

現在では愛知医科大学に学際的痛みセンターが立ち上がり、基礎研究だけでなく臨床も含めて集学的な治療に結び付けていけるような体制として発展しており、私もその中で基礎・臨床研究をさせていただきながら、患者さんの治療にも携わらせていただいています。その中でも、痛み学講座での経験は常に基礎となっており大変感謝しております。



2007.7 学際的痛みセンター開設  
2列目中央筆者



2008.10 中部生理学会テニス大会  
左端筆者

また、もともとテニスつながりの縁ということもあり、痛み学講座時代には、たまの休日に講座のメンバーや、生理学講座の方々と一緒にテニスをしたりもしていました。生理学会に参加した時には、熊澤先生と一緒に生理学会テニスに参加もさせていただき、中部生理学会ではテニス幹事もさせていただきました。その節には、関係皆さまご協力ありがとうございました。大変良い思い出となって残っております。最近では、浜松での教育が主となってしまっており、生理学会への参加も少し縁が遠くなってしまっていますが、また参加していきたいと思っております。

## インターネットとグローバル ゼーションについて

日本生理学会の皆様、こんにちは。

この度、北海道大学の國松淳くんからのバトンを受け取り執筆させて頂く事となりました。旭川医科大学生理学講座の赤尾です。私が大学に入学したのは1995年です。丁度Windows95が発売されパソコン通信からインターネットへと変貌を遂げる時期でした。インターネットの接続は電話回線を使うためNTTのテレホーダイというプランに入り深夜23時から朝8時までと限られたものでした。我が母校の酪農学園大学では学生のためのインターネット利用環境は用意されず、その理由が不健全だというのは当時の私でも呆れ返っていました。現在、幸いにも助教の職に就けたこの立場から言わせてもらえば、この不健全という表現は非常に的確だと思います。受験から解放された学生に国境を一瞬で超え世界中の情報に自由にアクセスする権利を与えたら、真っ先に海外のアダルトサイトに手を出すのは男なら必然です。検索サイトと言ってもGoogleはありません、Yahoo!のスタッフによる手作業リンク集でした。そのカテゴリ分けされたリンクリスト中のアダルトカテゴリからオススメ無料海外サイトリンクを集めたサイトにたどり着いた時は本当にインターネットって凄いと実感しました。そこで問題が発生します。自分がアクセスしたサイトの履歴が他人に知られると恥ずかしい。当時は今のように誰もがパソコンを持っているわけではないので、自分のパソコンを他人に使わせてあげる事がよくありました。それを隠すための方法を学ぶため、OSやソフトウェアが動作する仕組みについて学ばなくてはなりません。次に突き当たる問題は、画像のダウンロードと閲覧です。「右クリック→名前をつけて画像を保存…」を10回やる分には問題あり



國松くん(左)と赤尾(右)。真夏の登山で命を落とす危険というものを体験しました。

ませんが、100回、1000回となると流石に疲れます。そこで、便利なソフトのインストールという作業が出てきます。今のOSは非常に便利にできていて大抵の要望はOSが持つ機能だけで事足ります。日本で有名なオンラインソフト配布サイトといえば、窓の杜とVectorがあり、私もここからたくさんの便利なソフトをダウンロードさせて頂きました。良いソフト、そうでないソフト、有料、無料、本当に色々あります。中にはこの程度なら自分でも作れそう…っていうかもっと良い物が作れると思う。などとパソコン歴数年の素人に何の根拠も無く見下されるソフトも数多くあります。そんな見下した思いと、データ収集の効率化を目指し、より自分に合ったソフトを作りたいという気持ちから、プログラミングを始めました。やるからにはVisual C++、やはり響きがカッコイイし、良いソフトは皆このソフトを使って作られており、逆にVisual Basicは不出来なソフトが多いというイメージがありました。という訳で迷わず生協でVisual C++6.0を購入、インストール後、サンプルとして同封されていたメモ帳アプリケーションを開いて「これ無理。」と断念しました。

仕方なく Visual Basic も購入し、甘んじてソフト作りを再開。目からウロコでした。非常に理解しやすく、なおかつなんでもできる素晴らしいソフトです。プログラミングを学ぶ上で鬼門とされているオブジェクト指向とポインタを上手に回避しています。研究もそうですが、理解出来ない物に遭遇した時、敷居をひとつ下げたところから開始するという方法は全てにおいて共通していることなのかもしれません。ですが、プログラミングの手技手法を学んだだけでは自分好みのプログラムは作れません。参考書のサンプルは組めますが、画像ビューナーを作りたいとなると、そのひな形サンプルは流石にネットといえどありません。(最近はあるみたいですが。) ソフトから OS の機能を使うには API (Application Program Interface) と呼ばれる関数を使用します。この全ての API をまとめたりファレンスが存在するのですが、その量が膨大でかつ専門用語が多く入門者をはねのけます。自分の求める API を自力で探すのが難しいのです。補足ですが、一度慣れてしまうと簡潔で綺

麗にまとめられています。その困難を克服するため、この頃からインターネットの掲示板やメーリングリストを活用するようになりました。インターネットはそれまで私にとっては閲覧するだけのものでしたが、この辺から積極的に参加することになりました。名前も年齢もわからない者どうしが無償で技術的な質問に答えてくれる。当時の私には正直言って答える側のメリットが理解できませんでした。中には変なものもありますが、確実にその道何十年のプロもいます。そして暗黙のルールが存在します。質問する人は同じニックネームを使う。質問は丁寧語で、解決してもしなくても経過報告。解決したら結果報告とお礼を言う。今思えば、プログラミングに限らず、研究も含め全てに当てはまる教えを授かる理念ですね。そしてその中に教える側のメリットがあるのが重要だと思います。このメリットがよく分からない学生さんは教室の教官と午後のお茶時に議論してみるといいかもしれません。

山口大学大学院医学系研究科生体機能分子制御学  
岸 博子

## 「幸福の木」

愛媛大学大学院医学系研究科分子細胞生理学の高橋寿明先生より、バトンを受け取りました、山口大学の岸博子と申します。まず自己紹介をさせていただきますが、私は群馬大学医学部を卒業後、群馬大学内科学第一講座(現在の病態制御内科学)で呼吸器内科を専攻しました。4年間ほど臨床医として COPD や気管支喘息の患者さんの診療を行ううち、気管支平滑筋の収縮制御機構について研究したい、と思う様になり、群馬大学医学部薬理学教室(現在の病態薬理学)の小濱一弘先生の研究生としていただいたのが、私の研究者としての始まりです。研究生から大学院生となり、平滑筋ミオシン軽鎖キナーゼのドメイン構造と機能の解析についての研究を行ううちに、気管支平滑筋



「幸福の木」の花

から平滑筋の収縮制御機構やアクトミオシン系の制御機構に興味シフトしていきました。学位を取得後、1年ほど臨床の現場に戻りましたが、研究

を続けたいという気持ちは消えず、NIH/NHLBIのDr. Robert S Adelsteinの研究室に、2年間ポスドクとして留学し、非筋ミオシン軽鎖キナーゼについての研究を行いました。留学している間に9月11日の同時多発テロがあり、NIHから直線距離で20kmほどの所にある国防総省の一角が真黒に焼け崩れているのを、傍を車で走行した時に見た事が、強く心に残っています。2年間のポスドクも期限が近づき、通常ですと臨床に戻るところ、研究に未練を感じていた矢先に、現在所属している山口大学大学院医学系研究科・生体機能分子制御学的小林誠教授が教員の求人をしているという情報をいただき、面接。幸いにも講師として採用され、現在に至るまで血管平滑筋の収縮制御機構についての研究を行っています。呼吸器内科医の頃に勉強した呼吸生理学の知識は、講義や実習に生かされています。

さて次は、研究室の紹介を…と、思いきや、既に2010年のこのコーナーで当研究室の加治屋勝子先生が研究室紹介を下さっている様ですので、当研究室にある「幸福の木」についての話をしようと思います。調べたところによると、「幸福の木」は、置いておくと幸運を運んでくれるという言い伝えから付いた名前で、正式な名前では

*Dracaena fragrans* もしくは、*Dracaena fragrans Massangeana* の2種類を指すそうです。(木に付いている札を見ますと、研究室にある「幸福の木」は、後者の方の様です。)なぜ当研究室にあるのかというと、2008年の春、ある大学院生が卒業時に贈ってくれたからです。水は週に2回ほど、日当たりが良い窓辺に置き(しかし直射日光は当てない)、寒さに弱いので冬期は部屋の暖房を切らない、という様に世話をしていたところ、2010年の夏、木を贈ってくれた大学院生が結婚する直前に、花が咲きました! やっぱり幸せを運ぶ木だと喜ぶ一方で、インターネットで「幸福の木 花」で検索すると、花が咲いた後は枯れてしまうという事も多々書いてあり、心配しましたが、実際は花が終わった後も枯れる事はありませんでした。その「幸福の木」が、昨年末からつぼみらしきものが伸びてきたので、もしや、と思っていたら、2012年の初めに、再び花を咲かせました! 蛍光灯で照明しているにもかかわらず、日没後に開花し、香水のびんを割った様な強い芳香をはなち、朝が来ると閉じる、という事が何日か続きました。2012年は良い事があるのか、あるいはこの後枯れてしまうのか、期待と心配が入り交じった気持ちで様子を見ています。